新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

新年を迎えるにあたり、昨年度を振り返りながらご挨拶させて頂きたいと思います。

さて、2019年は天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位に伴い、30年間続いた元号も平成から令和に代わり、日本人にとっては大変大きな節目の一年となりました。私たちの血液内科学講座でも大きな出来事がいくつかありました。まず、嬉しいニュースは白河厚生病院で初期研修を終えた森博隆先生が開講初の入局者として私たちの仲間に加わったことです。Letterではありますが早くも英文誌に筆頭著者として論文が掲載されました。活字になった自分の名前を見て論文を書くことの喜びを実感してもらえたことと思います。森先生の今後益々の活躍を期待しています。

５月には長年にわたり大学で診療と教育に尽力してくれた七島晶子先生が南循環器科病院に転出しました。腫瘍内科学講座に勤務していた如山会員、野地秀義先生も4月に同院に副病院長として就職したことから南循環器科病院の血液診療が充実しました。当科からの紹介患者数も増え、後方支援病院として頑張ってくれています。

4月には太田西ノ内病院から佐野隆浩先生が帰局しました。学生や研修医の指導に熱心に取り組んでくれています。4月からは国立がん研究センター中央病院移植細胞治療科に6か月の予定で国内留学します。今後さらにたくましくなり、福島県の血液診療に貢献してくれるものと期待しています。一方で、太田西ノ内病院は佐野先生に加え、秋に常勤医が一名退職したことから血液内科医の負担が増えています。同院は郡山地区の血液診療を担ってきた中核病院です。2020年4月からは外来診療支援に2名派遣し、ゆくゆくは常勤医も2名派遣し、安定した血液診療の提供ができるように体制を整えることを考えています。

南循環器内科病院に勤務していた松本勇人先生は、かねてより出身地の白河市での勤務を希望していました。白河厚生病院院長、前原和平先生のご厚意で4月から血液内科副部長として勤務しています。悪性リンパ腫や多発性骨髄腫診療を中心に、三田正行先生、中村研一先生と共に県南地区の血液診療を支えてくれています。

いわき地区では2018年12月に磐城共立病院が建て替わり、新たにいわき市医療センターとして開院しました。同門会員の濱崎洋一先生と阿久津和子先生が中心となり診療と研修医の教育に力を注いでくれています。もともと私どもの関連施設ではありませんでしたが、平成28年にときわ会常磐病院が血液内科を開設しました。以後、同院の森甚一先生と診療連携を取るようになりました。同院からは年々移植患者さんの紹介が増えています。連携を更に密にしてスムーズな移植治療を行うために、令和二年春からは月に2回、外来診療支援のため医師を派遣する予定です。

血液内科学講座もおかげをもちまして５月で開講５年目を迎えます。令和二年4月には本学卒業生で、それぞれ竹田総合病院と本院で初期研修を行った遠藤麻衣子先生と柳沼真維先生が入局します。お二人ともまじめで頑張り屋さんです。今後この二人を頼って多くの卒業生が当科での研修を希望してくれるのではないかと楽しみにしています。今年は東京2020、オリンピックイヤーです。多くのアスリートに金メダルの期待が高まっていますが、若手医師の成長を見るのが私のこの夏の楽しみになりそうです。